

4. 市場調査

(1) 漁獲状況調査と市場価格について

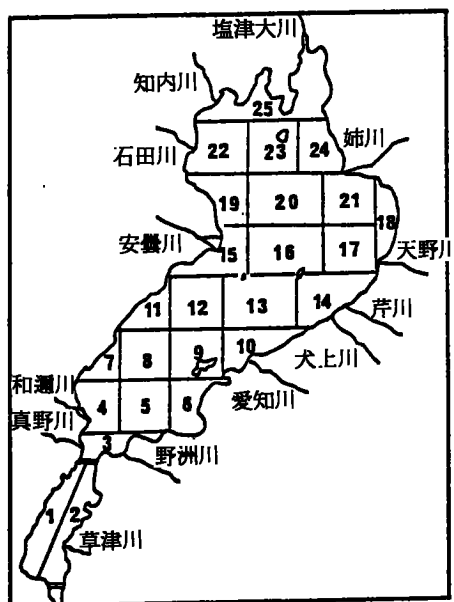
(水谷英志)

目 的

セタシジミの漁獲の現況と市場流通の実態を把握することを目的に実施した。

方 法

i) 県内の貝採捕漁業者に対し、1988年9月1日より、図15に示した漁獲日誌の記載を依頼した。



水 揚 日	—月—日
桁網の大きさ	ヨコ—cm×タカサ—cm
ツメの有無	有 無
操 業 時 間	—時—分～—時—分
1 回あたり 曳 網 時 間	—時間—分

	個数 (個)	重量 (kg)	金額 (円)
シ ジ ミ			
マ ル ド ブ			
タ テ ボ シ			
イケチョウガイ			
タ ニ シ			
そ の 他			
今日の総水揚げ			

図15 漁獲日誌

ii) 依頼した漁業者は、堅田漁業協同組合員4名、中主町漁業協同組合員1名、近江八幡漁業協同組合員1名、彦根市松原漁業協同組合員3名の計9名である。

結果および考察

貝採捕漁業者が漁獲の対象にしている貝は、二枚貝類のセタシジミ、タテボシ、マルドブ、イケチョウガイ、および巻貝のタニシ（オオタニシ or ナガタニシ）で、最も多く漁獲している種はセタシジミである。セタシジミの主な出漁場所と漁獲量は前述したとおりである。

(図2表1) 調査した漁業者9人の9月から12月までのセタシジミの漁獲量は、1人1日あたり10kg～290kgと個人差があり、4ヶ月間の総漁獲量は約26トン（総出漁日数410.5日）で、水揚げ高は約790万円であった。

表16は組合別の月別漁獲量と水揚げ高を示したものである。

県下貝採捕漁業の中心的組合である、堅田漁業協同組合は4ヶ月で約17.8トンを漁獲し、

516万円の水揚高をあげている。4漁協の中では、漁獲量で67%、水揚高で65%と、半分以上を占めている。

調査した4漁協9人の結果から、それら組合の実働貝曳漁業者22人の4ヶ月間の漁獲量に換算すると、約63.5トン、1,930万円となる。4漁協以外に貝曳網漁業を営むものは、昭和63年には、10人程度と思われることから、昭和63年の県下全体のセタシジミ総漁獲量を推定すると、約208トン、6,310万円の水揚高となる。なお、セタシジミの1kgあたりの単価は250円～370円で、平均310円で販売され、ほとんどが地場消費であった。漁業者は漁獲量が少なく、仲買者の需要に応じきれなくなっている。（セタシジミ需要の潜在力は大きい。）そのため、漁獲したものは、1人または2～3人程度の仲買者に直接取引する方法で捌かれている。

次にその他の漁獲された貝類の出漁状況と漁獲量を図16～図19、表17～表20に示した。

タテボシは、南湖のNo 1、No 2の所に最も多く出漁し、ついで、近江八幡市長命寺牧地先のNo 6、その他北湖の東岸部の水域に出漁している。4ヶ月間の総漁獲量は約4.8トン（延出漁日数148日）で、水揚高は131万円であった。そのうち、南湖だけでは、漁獲量、水揚高ともに、全体の78%を占めている。

マルドブの漁獲も、タテボシ同様、南湖に最も多く出漁している。4ヶ月間の総漁獲量は約5.5トン（延出漁日数148日）で水揚高は119万円であった。そのうち南湖が全体に占める割合は漁獲量、水揚高ともに93%であった。

イケチョウガイは、漁獲されるのはNo 1、No 2の南湖と、No 3、No 6の水域で、その他の水域では全く漁獲されていない。イケチョウガイを漁獲している組合は、堅田の漁業者のみで、4ヶ月間の総漁獲量は979個で全てが個人消費されている。（彼らは零細な真珠養殖業者でもある。）

次にタニシは北湖の湖岸域で主に10月から12月に漁獲され、総漁獲量は217.3 kg（延出漁日数50日）、28万円の水揚高であった。

以上、9人の漁業者のセタシジミ以外の貝類の総水揚高は4ヶ月間で278万円で、この値から昭和63年の県下全体の貝曳網漁業者32人の総水揚高を換算すると、約2,224万円となり、セタシジミを含む貝類全体では約8,534万円となる。

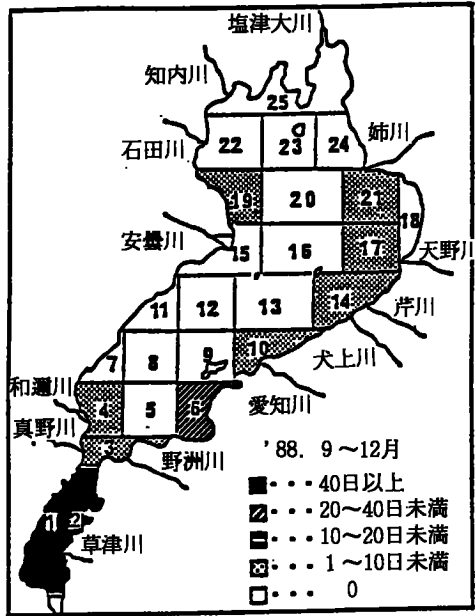
表16 昭和63年 組合別セタジミ漁獲量と単価

組合	実働 貝 曳 き 漁業者数	調査した 漁業者数	9 月 分		10 月 分		11 月 分		12 月 分		合 計		単 価	備 考
			漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)		
堅 田	9 人	4 人	2,298	779,900	4,594	1,311,040	4,567.6	1,304,280	6,327.5	1,766,190	17,786.6	5,161,410	250 円/kg ～ 350 円/kg	4人のうち2人は、漁業水域No.2を主漁場にし、他の貝を多く漁獲している。
中 主	1 人	1 人	352	105,600	626	187,800	542	162,600	546	163,800	2,066	619,800	300 円/kg	
近江八幡	4 人	1 人	2,031	622,240	1,669	503,550	—	—	—	—	3,700	1,125,790	280 円/kg ～ 330 円/kg	ほとんど地場消費
彦 根	8 人	3 人	611	226,070	949.5	351,315	452.5	167,425	674.5	249,565	2,687.5	994,375	370 円/kg	
計	22人	9 人	5,592	1,733,810	7,838.5	2,353,705	5,562.1	1,634,305	7,548	2,179,555	26,540.6	7,901,375	平均 310 円/kg	

表17

昭和63年9～12月分

水域別タテボシ漁獲量（調査した漁業者数9人）



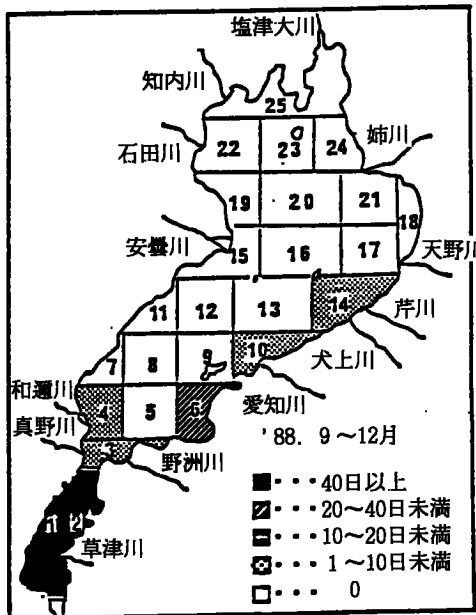
操業 水域No.	延出漁日数	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)
1	44	1,576.25	469,390
2	61	2,151.45	556,050
3	3	34.5	9,460
4	1	5.	1,400
6	22	639.1	184,820
10	5	87	26,100
14	5	110.5	13,320
17	1	43.	12,900
19	2	34.8	10,440
21	4	101.	30,300
計	148	4,782.25	1,314,180

図16 タテボシ漁獲出漁状況調査

表18

昭和63年9～12月分

水域別マルドブ漁獲量（調査した漁業者数9人）



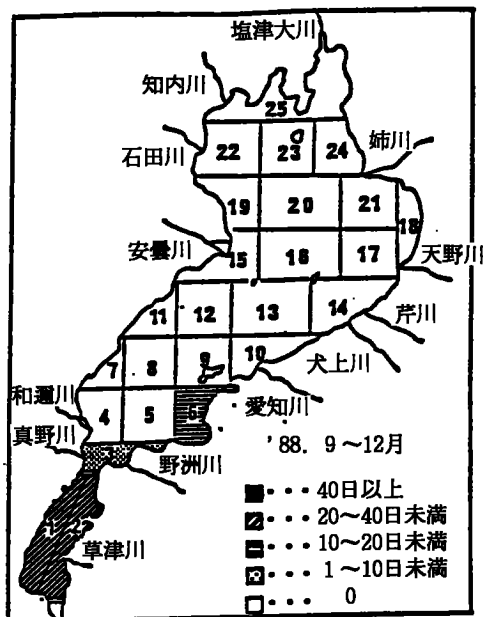
操業 水域No.	延出漁日数	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)
1	72	4,409.7	967,610
2	45	670.25	145,280
3	3	36.	7,200
4	4	2.5	500
6	21	301.5	59,900
10	2	46.	10,120
14	1	10.	2,200
計	148	5,475.95	1,192,810

図17 マルドブ漁獲出漁状況調査

表19

昭和63年9～12月分

水域別イケチョウ貝漁獲量（調査した漁業者数9人）

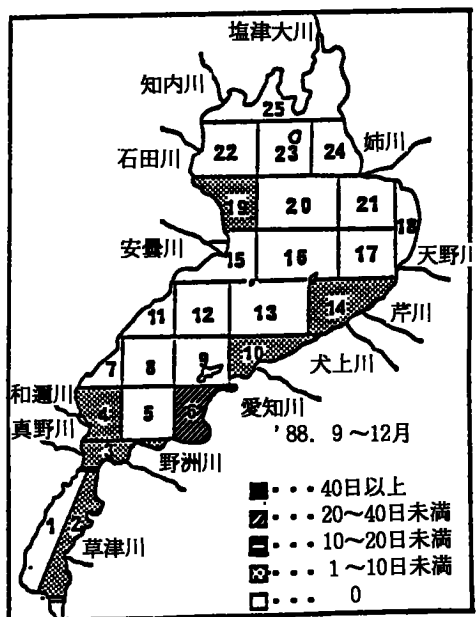


操業 水域No	延出漁日数	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)
1	59	673	
2	45	253	
3	1	4	
6	18	49	
計	123	979	

表20

昭和63年9～12月分

水域別タニシ漁獲量（調査した漁業者数9人）



操業 水域No	延出漁日数	漁獲量 (kg)	水揚げ高 (円)
1	13	16.25	20,825
2	6	9.25	12,025
3	3	8.9	11,440
4	1	1.	1,300
6	20	43.9	56,540
10	3	42.5	55,250
14	1	23.5	30,350
19	3	72.	93,600
計	50	217.3	281,330